

「まあ、いまのひとは、なんて、ふしぎなひとでしよう。はじめから、そういってくれれば、こんなにびっくりしないのに。おしまいまで、ちっともくちを、きかないなんて、へんなひとだこと…」と、ひとりごとをいっているうちに、ふうせんは、てつのおしろのなかの、ひろいおにわのまんなかへ、ふんわりとおちました。ひめは、ほんとうにあんしんして、そこにしいてある、しろいすなのうえにおりましたが、ふうせんは、そのままちいさくたたんで、ぽけっとにしまっておきました。そのうちに、ひめのまわりには、てつのおしろの、てつのよろいをきた、へいたいさんが、たくさんにあつまりましたが、ふしぎにも、ひとりも、くちをきくものが、ありません。だまって、ひめをつれて、おうさまのまえに、つれていかれました。おうさまと、おきさきさまは、てつのおしろのなかの、お

おきな、おおきな、てつのへやのなかの、たかい、たかい、てつのだいのうえに、まくろなきものをきて、てつかんむりをかむって、てつのいすに、すわっておりましたが、そのへやじゅうのものは、てつかべも、てつのゆかも、てつのはしらも、てつてんじょうも、それから、いっぱいに、ならんでい